

あなたは世の光

園長 高地 敬

私たちは、世の中でかわいそうな人たちに手を差し伸べなければならない
いと 考えます。社会の日陰に住んでいて、しんどい気持ちを抱えているよ
うな人を何とか支えなければならないとも 考えます。恵まれない子どもが
いれば、「この子にも世の中の光を当てなければならない」と 考えます。
そのように 考えるのは当然と思えるのですが、そんなときの私たちの思
いは、この子はかわいそうだから何とかしないとイケないというもので、
自分を基準にして相手のことを 考えてしまっていないでしょうか。

糸賀 一雄 という日本の社会福祉の父と呼ばれる人がいます。西日本で
一番早く 重症心身障がい児の施設を造った人です。「この子らを世の光
に」という有名な言葉があります。知的障がいや心身障がいの子どもた
ちに社会の光を当てて、救っていかなければならないとようやく 考え始
められた頃に、『違う。自分の方に光があるのではなくて、本来この子ら
が世の光なのだから』と、全く逆の考え方を示しました。糸賀 一雄は
クリスチャンで、「世の光」は聖書からとられています。

聖書にイエスさまの言葉として「あなたがたは世の光である」と書かれ
ています。直訳すると、「あなたがたこそ世の光である」となります。
イエスさまの周りには社会の最下層の人たちが集まっていました。そんな
人たちにイエスさまは呼び掛けられます。「社会の強い立場の人たちに踏み
つけにされ、ひどい生活をして毎日とてもしんどい、そんなあなたがたこ
そが『世の光』だ」

さあ、すみれ組さんはいよいよ卒園です。これからも毎日楽しいことが
いっぱいありますように。ちょっとしんどい時も、「あなたは世の光」と
いう声が聞こえてくればいいなと思います。また、今の自分よりもしんど
い人から「世の光」が出ていることに気が付けばいいなと思いま
す。